

(様式)

平成29年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も、観察・実験の技能の達成率が上がった。特に4年生は高い正答率を示した。
- ・5年生では、大田区学習効果測定における目標達成率が大幅に上がった。

(2) 課題

- ・日常生活における自然事象に関心をもたせ、学習したことを広げたり、深めたりする態度を育てることが必要である。
- ・飼育・栽培・観察・実験など経験を多く積ませ、実体験を通して知識の量を増やすことが必要である。
- ・常に「なぜだろう」という疑問をもたせてから解決をして理解を深めさせることが必要である。
- ・既習事項を定着させ、それを生かして考える力を育てることが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率の変化（経年比較）

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第4学年	達成率±0		
第5学年	達成率+9.8	達成率-7.5 (第4学年時)	
第6学年	達成率-11.1	達成率+12.1 (第5学年時)	達成率-1.9 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 4・5・6年

関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解
観察・実験に対して興味・関心をもって取り組む児童が多い。しかし、授業後にその興味・関心を広げたり、深めたりして、自分で調べようとする児童は多くない。	観察・実験の後、その現象について考えさせたり、疑問をもたせたりすることが必要である。結果を表やグラフに表すなどの表現が不十分である。	実験器具の使い方や <u>観察・実験の方法については、どの学年も良く理解している。</u>	<u>4年生は、「太陽と地面のようす」、5年生は「1年間の動植物のようす」・「物の体積と温度」、6年生は「人の誕生」の理解が不十分である。それ以外の単元についてはおおむね理解している。</u>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>学習の中で、他の植物・動物・物質との類似や相違を意識させ、知りたい・調べたいという意欲に結び付ける。</p> <p>飼育・栽培・観察・実験を通して、体験学習ができるよう環境を整える。実体験できないものについては、VTRなどを使って、疑似体験をさせ、関心を意欲・態度へと繋げるきっかけとする。</p>	<p>飼育・栽培・観察・実験などの記録から分かることをクラス全体やグループで考えさせる。</p> <p>日常の経験から予想を立てたり、自分の予想と結果を比べたりする。</p> <p><u>考えるための知識が不十分な時は、それを補いながら、どのように考えるかを、小さいステップを踏みながら指導する。</u></p>	<p>どのように飼育・栽培・観察・実験を行ったらよいかを考えさせて、ねらい・目的をしっかり押さえる。</p> <p>ねらい・目的に沿った記録をすることを通して、観察等に必要の事柄を覚えさせる。</p> <p>器具・用具の名称や基本的な使い方を児童が理解できるように普段から掲示し、親しませる。</p>	<p>VTRなど視覚的資料を多く用いて、知識・理解につなげる。</p> <p>飼育・栽培・観察・実験したことを、ワークシートやノートなどにどのように記録したらよいかを指導する。</p> <p>新しい学習に入る時には、関連する既習事項を復習し、観察や実験の際に生かすよう意識させる。</p>

(2) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>飼育・栽培・観察・実験を通して、体験学習ができるよう環境を整えていく。</p> <p>常に「なぜ」との疑問をもたせ、その疑問を解くことができるよう学習を深め、知識を増やし、意欲・態度へと繋げていく。</p> <p>実生活との関連を重視し、理科を学ぶことの有用性を実感する機会をもたせることで、関心を高めるよう工夫する。</p>	<p>十分に時間をかけ、飼育・栽培・観察・実験などの記録から各自が分かったことを必ず書くようにさせる。</p> <p>規則性や関連性などを見出させる。事象に対する理由についてクラスやグループでも考えさせ、全体で共有を図る。</p> <p>各自が見出した事項やクラス全体やグループで考えた理由を自分の言葉で記録させる。</p>	<p>常にねらい・目的を意識させ、どのように飼育・栽培・観察・実験を行ったらよいかを推論させる。その際に、日常生活における体験を通して予想できることはないかを意識させる。</p> <p>計画的に段階を踏みながら進められるように指導する。</p> <p>必ず記録をとらせ、記録を基に飼育・栽培・観察・実験の方法について、確認させる。</p>	<p>VTRなど視覚的資料を多く用いて、知識・理解につなげる。</p> <p>新しい学習に入る前に、関連する既習事項を小テスト等で復習し、観察や実験の際に生かすよう意識させる。</p> <p>調べ学習を取り入れ、グループで話し合わせたり、発表の機会をもたせたりする。</p> <p>科学的読み物を紹介し、親しませる。</p>